

特別講演 2

「アドバンス・ケア・プランニング

いのちの終わりについて話し合いをはじめる」

神戸大学医学部附属病院 緩和支援診療科 特命教授

木澤 義之 先生

アドバンス・ケア・プランニング (Advance Care Planning : 以下 ACP と略) とは、「患者・家族・医療従事者の話し合いを通じて、患者の価値観を明らかにし、これからの治療・ケアの目標や選好を明確にするプロセスのこと」を指す。北米では 1980 年代から、病状の悪化に伴い意思決定能力が低下しても、本人の意思を尊重した医療を行うために、アドバンス・ディレクティブ (Advance Directive : 以下 AD と略) の取得が推進されてきた。しかし AD をただ機械的に取得しても、患者の意向は尊重されず、QOL も向上しないことが、複数の研究から明らかとなっている。この問題を克服するために、患者の価値観を明らかにし、それらに基づいた治療・ケアを話し合いを通じて明らかにしていく ACP という概念が生まれた。今後高齢多死社会を迎える我が国においても、2018 年に改定された人生の最終段階における意思決定プロセスに関するガイドラインならびにその解説編においてその重要性が強調されている。本講演ではアドバンス・ケア・プランニングの意義とその実践について概説する。